

所属	言語文化研究科 英語・英語教育専攻 修士課程	修了年度	平成 26 年度
氏名	金井 智	指導教員 (主査)	時本 真吾

論文題目	外国語産出力の評価法、及び産出力と言語知識の相関
------	---------------------------------

本文概要

日本人英語学習者が英文をリピーティングする際に、頭の中で機能する統語力を分析した。実験参加者(日本人大学生)21 名に対し、統語文(通常の英文。例えば、名詞-動詞-形容詞-名詞のような英文)のリピーティング課題、非統語文(単語同士が統語規則に従って並べられていない英文。例えば、名詞-名詞-名詞-名詞のような英文)のリピーティング課題、語順整序文法テスト、学習ストラテジーに関するアンケートの4つの課題を使って実験を行った。

本論では、リピーティングの際に機能するワーキングメモリの特性を考察することで、統語文リピーティング課題の点数から非統語文リピーティング課題の点数を引いた値がリピーティング時に機能する統語力であるとの仮説を立てた。そしてこのリピーティング時統語力と他の課題との関わりを重回帰分析や相関分析で分析した。

その結果、リピーティング時に機能する統語力は、語順整序文法テストを回答する際に機能する統語力のうち、単語の前後関係に着目して回答しようとする統語知識が強い影響を与えていることが明らかになった。また、学習ストラテジーに関するアンケートのうち、メタ認知ストラテジーの項目もリピーティング時統語力に対して影響力があることも明らかになった。

その一方で、語順整序文法テストの最終的な点数に対しては、単語の前後関係に関する統語力よりも、単語と単語の隣接に着目して問題を回答しようとする統語力の方が強い影響を与えていることが明らかになった。

よって本研究により、耳と口を使ったリピーティング時に機能する統語力と、筆記による文法テスト回答時の統語力にはずれが生じていることが明らかになった。

高校や予備校の授業によっては、語順整序問題の解法として5つや6つの単語の選択肢をまずは簡単なものから隣接させることによって、2つや3つほどの句や節などの語彙チャンクにまとめてから順番を考えるとといったテクニックが提唱されることもある。本研究でも、単語の選択肢をどのような順番に並べればよいかに関する知識がある参加者よりも、どの単語とどの単語が隣接の関係にあるのかに関する知識がある参加者の方が高得点に結びつきやすいことが分かった。

しかし本研究により、オーラルコミュニケーションの際にストレスなく自動化された統語力を運用する為には、文法問題の解法テクニックのみに頼るのではなく、なぜこのような単語の前後関係になるのかに関する授業を行った方が、より実用的な統語力が身に付くと考えられる。